

岩手県 グループホーム千鳥苑 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5項目の目標を掲げ普通の生活ができることを最大の目的としている。利用者、家族、訪問者が見やすい場所に掲示している。	○ 地域との係わりを絶やさない様に努めたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、職員が理念に近づける様なケアに心掛けている。	○ 利用者の状態に合わせたケアの取り組みに努めたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や近隣の方々と話す機会がある時説明をしている。行事などを利用している。	○ 隣接するケアハウスとの合同行事を行う事がある。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々との挨拶は欠かさないし、入居者との散歩の時も進んで声掛けしている。時々野菜を頂いている。	○ 地域の行事への参加と、ケアハウスの入居者との交流を深めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板等で情報を収集し行事に出かけている。地域の人々との交流の機会を常に持っている。地区健康診断にも出かけている。	○ 情報漏れのないようアンテナを張りめぐらしていきたい。常に参加できるよう、利用者の体調管理に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣接するケアハウス南側にゲートボール場を設け、近隣の高齢者に呼びかけ利用していただいている。	○	入居者が興味を持ち、見学等で参加できるよう援助したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の時の指摘点に重点を置き、改善に取り組んでいる(居室の生活観不足、研修計画、入居者の嗜好品の提供、行政との係わり)		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後、職員間で情報を共有し、ケアの際に生かしている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回確実に行いたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の受け入れ等依頼している他、認定調査の時の係わり、会議にも出来るだけ出席している。	○	地域ケア会議に参加できるようお願いしたい。情報を見逃さないよう注意している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各スタッフ、研修で知識を得ているが、それを共有する機会を持っていない。	○	研修への参加。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を持ち、毎日の業務の中でスタッフ間で確認している。	○	研修への参加と内容を共有する機会を持つ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当ケアマネージャーより情報を得たり、施設等訪問し面接、入居希望者に来苑して頂く事もあり、契約時間を十分取り、説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成20年4月からケアハウスと合同で第三者委員会を水沢の本部より独立し、苦情処理委員会がある。	○ 苦情処理委員名を掲示している。スタッフ間の意見を反映する職員会議を定期的に設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常生活で変化があった時は常に電話で報告している。又、通信も発行している。職員の異動については、個々に合わせた説明をしている。	○ 家族への近況報告を手紙で毎月行うようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設け、苦情処理委員会にかける用意あり、家族の面会時の会話から判断し、要望や意見に、対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苦情処理委員会や人事考課制度で機会を設けている。	○ 今年度から人事考課制度を実施している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整や業務の変更などは柔軟に対応し、無理のない勤務体制に心掛けている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に担当を設けて家族の対応、薬の管理、衣類のチェック等行っている。職員が変わる時は引継ぎの期間を十分取り、情報を共有するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数で研修内容を予定しているものもある。種々の研修を平等に受けるようにしている。</p> <p>法人内研修もある。</p>	○	研修内容を回覧しているが、勉強会を開き発表の場を設けたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>スタッフの研修を通じて、他施設との個人的な交流はあるが、グループホーム間の交流は話題に上るが、実現していない。</p>	○	新任職員の場合、1日の他施設研修で勉強する機会をもつが、経過するとタイミングを逃してしまうので、団体での訪問も考えている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会やボーリング等話題になるが、実現できていない。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>今年度より人事考課制度が実験的に始まっているため、各職員の意識改革に繋がっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネージャーだけでなく、担当スタッフが「私の気持ちシート」を作成し、細かい部分まで情報を集めている。</p>	○	コミュニケーションをとりながら、会話を引き出し、関係を保てるよう日々努力する。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接はスタッフ2人で行い、家族からの情報を聞き漏らさないよう努力している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に得た情報を職員間で話し合い、必要としている支援内容が当苑で良いか見極めている。家族の判断に任せる事もある(金銭面)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば本人の事前見学、体験入所も提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が何を考えているか、何をしたいか、理解するようにしている。レク、調理、野菜作り、花壇作り、掃除等の行動から、利用者に教わる事が多い。	○	得意な事は認知症が進んでも続けて行けるよう支援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族が行う事を原則としているため、家族は日常の様子を把握している。家族には職員ではできない支援があるとお話している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	体調面、精神面で変化があった時は、家族に報告している。面会時など家族からの話や相談は聴きとめ、スタッフ間で情報を検討している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者があると入居者は喜ばれ思いが伝わってくるので、続けてもらいたい。家族の中には、拒否される方もいるので、情報を入手するよう努めている。	○	家族や近隣の方々が気軽に立ち寄れるような、笑顔のある、暖かい環境を作りたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、孤立しない様に、得意な事を他利用者で行えるように支援している。孤立しているような利用者には声掛けし、コミュニケーションをとり、一人にさせない介護に努めている。	○	利用者同士のトラブルや人間関係は特に観察し、対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が退所しても必要に応じ、手紙や電話をしているが、時候の挨拶状を出し、関わっていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人が言った言葉を生活日誌に書き止めている。困難な場合でも、スタッフ間の話し合いや、ケア会議に取り上げ実現するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者、前担当ケアマネージャーの協力を得て、今までの生活を把握している。	○	入居者にグループホームでの充実した生活を送って欲しい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察や職員同士の情報交換で現在の状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族が希望しているケアを聞き取りケアプランに入れている。作成後は来苑時、家族に説明している。	○	問題点だけを取り上げる傾向にあるので、利用者が楽しく暮らせることを中心に考えるように、努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送りで日常生活の問題点が上げられ、いつでも見直しケアを行っている。	○	3ヶ月に1回ケース会議を定着させたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡ノート、個別ケース記録に記入し、グループホームでの細部情報を全スタッフが共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するケアハウスの行事に希望する入居者と参加している。家族が参加する事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民による理髪ボランティア、民生委員の運営推進会議への参加依頼、芸術祭の作品出品、見学、防災訓練で消防署や地区消防隊員の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターやグループホームのケアマネと親交を深め情報を集めている。他にも研修の際の仲間と横の繋がりも利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに常に連絡を行い相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族通院なので入所しても今まで通院していた医療機関に行って頂く、通院時は日常の生活面のデータを持って行っていただく。緊急時は協力医療機関へ受診の支援をする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者が専門医を受診されている方もいて情報を得ている。状態が変化した時は、スタッフが受診に同行し説明を行っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配属になり、日常の健康管理や医療面の支援をしている。	○	平成20年4月1日より医療連携体制加算を行っている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院を訪問し、入居者の様子や今後の対応を、家族や医療機関と情報を交換している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の不安を持っている家族の話を伺い、不安を取り除けるように看護スタッフを中心に入居者の日々の観察を怠らず、特変時は早めに行動している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携体制加算はとっているがグループホームでの支援には限度があるため、早い段階でかかりつけ医と相談している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護度が重くなり、グループホームでの支援ができなくなった時、家族に説明し、十分な話し合いを行い、理解していただいてから住み替え支援を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁や行動障害の時は、周りの利用者に気付かれないように自然に介助出来る様に心掛けている。申し送りや記録簿には近くにいる入居者に分らないように、イニシャルで行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の気持ちを素直に表せられるよう、聴く態度や表情に気をつけて対応している。出来る事、出来ない事を見極め個別に支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や業務でスケジュールが職員本位になる事があるが、利用者が何気なく言った言葉を聞き逃さずに、出来る範囲で希望をかなえている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類については本人の希望に任せているが、季節に合った服装へと助言や援助をしている。理容はボランティアが入り、本人も家族も同意している。	○ 理容の髪型は本人の意向を汲んであげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは入居者と共に行っている。一人ひとりの好みは入居前の面接時に聞いたり、日ごろの会話を聞き漏らさないようにしている。誕生日には好きな物を用意している(甘い物、寿司等)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が持参する好みのコーヒーやお菓子を預かり、時間を決め各入居者に提供するようにしている。自己管理している入居者は見守っている。酒、タバコ愛好家はいない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを日ごろから、観察し声掛けや援助を行っている。ケアプランにあげ、ケアの統一を行っている。	○	日中リハパン、夜オムツの入居者が現在、日中失禁パンツ、夜リハパンで対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉をアピールし入浴を進めている(千鳥温泉)基本パターンを決めているが、本人の希望に合わせ、無理強いを行わないが、清潔保持には留意している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者がホールや和室など、好きな場所で自由に過ごしていただいている。冬は和室に炬燵を設け、昼寝する入居者もいる。危険のないよう見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や得意な事を把握し、材料や場所など入居者が自由に行えるような環境作りをしている。個々に対応した支援を行っている。散歩、ドライブ、花植え、草取り、レクリエーション、食事の準備等。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは預からない方針である。常に家族を通して。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や隣接するケアハウスでの行事、地区のイベントに積極的に参加している。	○	買い物好きな入居者と一緒に出掛け、立替払いのプランがあるが、実行していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出への援助は行っているが、行き先はこちらで情報を得ながら行っている。花見、消防演習、地区運動会等がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話を掛けたり、電話が来ると取り次いでいる。手紙がくると、返事は職員が代筆している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるよう家族に声掛けしている。来苑時は居室で過ごしていただいている。(スタッフは介入しない)		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない、ケア、見守りで補っている。身体拘束に関する研修には積極的に参加し意識の統一を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置していない。日中、玄関には鍵を掛けないケアを行っている。夜間19時～7時まで防犯のため施錠している。玄関にセンサーを付けて入居者の出入りを見守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、外に出た場合、職員が見守り、所在の確認をしている。行動パターンを把握し、情報交換しながら、職員が共有している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	カミソリやはさみなど本人の了解を得て、事務室で預かっている。入居者がそれらを必要としない先回りケアを行うよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	非難訓練を年2回実施している。 エスケープマニュアルを作成している。 センサーマットを使用し入居者の動きを早期に把握し、転倒防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急病、事故発生時対応マニュアルを作成しスタッフ間で周知している。隣接するケアハウスにAEDが設置されている。スタッフは救命救急講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。入居者、スタッフ、地域の方々の参加も得られ、協力を働きかけている。地域防災協力員の名簿を作成している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の他に担当の職員と家族の間で連絡を密に取り合い、状態に応じ話し合い、全員で共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い異常があれば、看護師に報告してアドバイスを頂き、日常生活の変化にも看護師はじめ全員で見逃さないよう気をつけている。場合によっては家族に報告し協力医へ受診している。	○	家族の協力で受診を行っているが、緊急時はスタッフが対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者担当職員が使用している薬の目的や副作用を熟知し、看護師のアドバイスも受け、スタッフ間で共有している。	○	誤薬を防止するため与薬時は複数の目で確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況をチェック、散歩、体操、水分補給などを行い、便秘防止に努めている。看護師による観察や指導を受けている。	○	個人差で運動や飲食物による便秘対策不可能な場合、医師に相談する事もある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の口腔マニュアルを作成し、毎日の口腔支援を行っている。無理強いせずタイミングをみて口腔ケアの声掛けや援助を行っている。	○	口腔ケアの研修への参加。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事形態、普通食、刻み食を行っている。おやつ1日2回緑茶も飲んで頂いている。水分補給をゼリー状にて対応の入居者もいる。	○	本部の栄養士に相談し、体重推移表を作成している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。毎日の手洗い励行、アルコール手指消毒、インフルエンザ予防接種は入居者、スタッフ全員受けている。	○	研修への参加。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾、まな板、包丁、箸をハイター消毒している。食材は新鮮な物を配達して頂き確認している。賞味期限も確認してから使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えを置き安らぎを持てるよう工夫している。庭の草取り、庭木の手入れは入居者が手伝ってくださる。毎日の掃除で清潔感に気をつけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入居者の作品を飾っている。レクリエーションの一貫で毎月替えている。散歩時入居者が花を摘んでくるので玄関先に花瓶を置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが2台ありリビングや和室など入居者の気に入った場所で観ている。奥の広場でレクリエーションを楽しむ事もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた家具や好みの物を持ってきていただいている。家族の写真を持ってこられ、時々眺めている入居者もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の都度窓を開け換気を行っている。ストーブ使用期間は加湿を行っている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない部分も作り、スロープを必要時利用していただいている。安全面から今年8月玄関に手摺りを付け加え、自立した生活が送れるよう見守っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂の場所など親しみ易く墨で書いている。地元の方言や地名を出してコミュニケーションを図り対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に物干し台があり自由に干していただいている。窓の下に畑を作り野菜を植えている。プランターに花を植えて毎日水遣りを自発的に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)